

11 月 15 日 年間第 33 主日

主イエスよ、来てください！

マルコによる福音書 13 章 24～32 節

²⁴「それらの日には、このような苦難の後、

太陽は暗くなり、

月は光を放たず、

²⁵星は空から落ち、

天体は揺り動かされる。

²⁶そのとき、人の子が大いなる力と栄光を帯びて雲に乗って来るのを、人々を見る。²⁷そのとき、人の子は天使たちを遣わし、地の果てから天の果てまで、彼によって選ばれた人たちを四方から呼び集める。」

²⁸「いちじくの木から教えを学びなさい。枝が柔らかくなり、葉が伸びると、夏の近づいたことが分かる。²⁹それと同じように、あなたがたは、これらのことが起こるのを見たら、人の子が戸口に近づいていると悟りなさい。³⁰はっきり言うておく。これらのことがみな起こるまでは、この時代は決して滅びない。³¹天地は滅びるが、わたしの言葉は決して滅びない。」

³²「その日、その時は、だれも知らない。天使たちも子も知らない。父だけがご存じである。」

他の朗読：ダニエル 12:1～3 詩編 16:5, 8～11 ヘブライ 10:11～14, 18

Lectio …読む

イエスが地上に住んでおられた時代、多くのユダヤ人は、人間の歴史の終わりは神により既に決められていると信じていました。今日の朗読の中で、イエスはもう少し詳しく描写しています。

太陽と月はもはや輝かず、星は空から落ちる宇宙の大変動の後、イエスは大いなる力と栄光を帯びて空に現れるでしょう。イエスは世界中から人々を集めるために、天使を遣わされるでしょう。ですからキリスト者にとって、歴史の終わりはイエスと生きるという新しい経験の始まりです。紀元 1 世紀のキリスト者は熱心にイエスの再臨を期待し、毎日「主イエスよ、来てください」と祈りました（黙示録 22 章 20 節）。

私たちはいつも希望の中で生きることができます。永遠にイエスと共にいるために、イエスの再臨を熱望する一方で、今日の今この場で誠実に生き続けなくてはなりません。私たちはイエスと共にいることができるという将来の希望と、イエスが私たちを集めるためにいつか戻ってくるという約束を持っています。

イエスはいちじくの木のとえを用い、夏の到来のように、目に見える明らかな兆候に注意するように教えます。しかし、イエスがいつ戻ってくるかの正確な日付は誰にも分かりません。それはイエスご自身にさえも分からないのです。御父である神のみがそれを知っておられます。

全てのこの大変動の最中であっても、イエスは「天地は滅びるが、私の言葉は決して滅びない」と勇気づけてくれています。

Meditatio …黙想する

この世には終わりがあると知ることは、私たちの生活にどんな違いをもたらしますか。

これは私たちが行う決定にどのような影響を与えるでしょうか。それは私たちの時間とお金の使い方にも影響を与えるでしょうか。

イエスは、天地は滅びるが自分の言葉は決して滅びない、と言います。このことはイエスの言葉の重要性について私たちに何を伝えているのでしょうか。聖書を通して神が私たちに明らかにしていることを見出すのに、私たちはどの位の時間を費やしているのでしょうか。

Oratio … 祈る

「主イエスよ、来てください」は、力強い祈りの言葉です。この言葉をいつも祈るようにして、イエスにあらゆる人や場所において仕える機会を見出すよう努めましょう。このようにすることで、あなたはイエスの再臨を早め、この世における彼のみ国を広げることができるのです。

Contemplatio … 観想する

ダニエル 12 章 1 ～ 3 節の中で、私たちは終わりの時の光景を読みます。その中で正しい行いをし、人にも同じことをするように教えた人々は救われます。ダニエルはまた、黙示録 21 章 27 節を指して、救われる人々の名前が書いてある小羊の命の書について示しています。

ヘブライ 10 章 11 ～ 14、18 節はイエスの祭司職をユダヤの祭司たちと比べます。イエスの祭司職といけにえは私たちのために全てを成し遂げます。このために、ダニエル書の中で描写され、マルコによる福音書の中で確認された約束はこれほど確信に満ちているのです。